



会長あいさつ

栃木県市町村保健師業務研究会会長 稲葉 節子（那須烏山市）

新春の候、会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、10 年ぶりに保健師活動の指針が見直されるという大きな節目の年となりました。新たな指針は、「地区担当制の推進」「統括的な役割を担う保健師の配置」など 10 項目に及び、私たち地域で活動する保健師が目指すべき基本的な方向性や、所属組織・部署に応じた活動の在り方が示されました。

特に今回の見直しでは市町保健師の役割がはっきり提示され、求められるものも大きくなっています。私たち保健師が行政の中にいる意味を自覚し、保健医療の専門家であると同時に行政官でもある「保健師」にしかできない業務に取り組まなければならない時代が来ていると考えます。

昨年の全国保健師長研修会では、「新たな時代を見据えた保健師活動とリーダー保健師の役割」をテーマに様々な意見のやりとりがされました。

全国保健師会長からは、これまでの保健師活動を振り返るとともに、将来の保健師活動を考え、「自治体ごとの活動指針」を策定することが大切であること、そして機を逃さずに取り組んで欲しいとの話がありました。当研究会においても、皆さんとともに考え、今後の保健師活動がしやすいような指針づくりを進めたいと思います。

さて、全国市町村保健活動協議会については、「市町村保健活動に従事する者の組織」として、保健事業に関する調査研究や研修、情報交換の場の提供など、これまで大きな役割を担ってきました。事業仕分けによる補助金削減や加入団体の減少等厳しい状況の中、事業を見直すなどして存続に向け取り組んでまいりましたが、昨年 12 月に開催された臨時総会において解散が決議されましたことを、皆様にご報告いたします。

平成 26 年も、本会の活動の充実と発展に向け、一丸となって取り組んで参りたいと考えておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



《調査研究班》

調査研究班 白石 孝江（栃木市）

調査研究班では、平成 25・26 年度の 2 か年間にわたり「成人の歯科保健事業の取り組み」をテーマに調査研究に取り組むことになりました。

歯や口腔の健康づくりは、乳幼児から高齢者の多岐にわたり健診（検診）等歯科保健事業で取り組まれています。しかし成人の歯科保健事業については、歯周疾患検診の受診率が低い状況にあり、また各市町により取り組み状況が異なり、検診後のフォロー体制等不明な部分があります。

そこで、成人の歯科保健事業に関する調査を行い、成人歯科保健事業の現状を把握し課題を明らかにした上で、効果的な歯科保健事業の方策を考えていきたいと思います。

調査は、①全保健師を対象に成人歯科保健事業の意識調査、②成人歯科保健事業を担当する保健師を対象に成人歯科保健事業の実施状況調査の 2 つを行います。会員の皆様には、アンケート調査のご協力をよろしくお願いいたします。

《研修・広報班》

研修・広報班 岡崎 眞弓（市貝町）

研修・広報班では、県内市町の保健師が情報交換を通じて、地域を取り巻く諸問題を共有し、保健師活動の見直しと資質の向上を図るため、研修会を企画しております。

平成 25 年度は、県南ブロック保健師業務研究会との共同研修会も含め、3 回の研修会を開催いたしました。平成の大合併後、保健師の分散配置がすすみ、保健師の役割が見直されている現状です。健康問題を取り巻く社会環境の複雑化により、多職種との連携や、ソーシャルキャピタルとの協働した活動が緊要になります。それらの諸問題を共有して、今後の保健師活動に有用な研修会になりますよう、今後も研修・広報班一同努めてまいりますので、研修会内容等皆様のご意見ご要望をよろしくお願いいたします。

◎第 1 回研修会

第 1 回研修会は、「地域保健をめぐる国の動きと保健師に期待すること」と題し、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課保健指導室長尾田進氏より講話いただきました。

まず社会保障制度をめぐる現状として、人口構造の急激な高齢化により社会保障費が国の財政に占める割合も急増しており、社会保障制度の改革が喫緊の課題とのことでした。

保健師については、平成 25 年 4 月に局長通知として出された「地域における保健師の保健活動について」において、今後の保健師の保健活動の基本的な方向性が打ち出されましたが、特に地区担当制の推進や、統括的な役割を担う保健師等の配置、人材育成の推進について明記されたことが重要とのことでした。分散配置の現状を踏まえて、所属する組織や部署にかかわらず保健師として活動する際に共通して押さえておくべき事項とされているのも、今回の見直しのポイントとのことでした。この指針の策定過程において、保健師は、「個人の健康問題から集団に共通する地域の健康課題を見だし関連施策を総合的にとらえる視点を持ち（「みる」）、健康問題の解決に向けて住民や組織をつなぎ（「つなぐ」）、自助・共助などの住民全体の行動を引き出し、地域に根付かせる（「動かす」）役割を担っており、健康課題が顕在化する前の段階からその可能性を予見し予防的に介入していく」とされ、「地域に入り地区活動を通じて、個々の事例に共通する要因や潜在するニーズを地域の課題としてとらえ、それに応じた活動を展開する」存在とされています。それが保健師活動の《本質》であり、それ自体は以前から大きく変わっていないとのことでした。

社会構造の変化に伴い保健師活動をめぐる状況も大きく変化してきましたが、今後は地域の特性を生かし、ソーシャルキャピタルを醸成・活用することで住民の主体的・継続的な健康課題への取り組みを促し、「健康なまちづくり」を推進することが必要とされています。今回の講話を通じて保健師の存在意義を再認識するとともに、今後の活動の方向性について理解することができました。



◎第2回研修会



今回の研修会は、栃木県市町村保健師業務研究会と県南健康福祉センター管内保健師業務研究会との共催で実施しました。『体験！骨盤矯正ダイエット～脱！腰痛・尿漏れ～』と題し、ボディプロデュースクリマの並木裕子氏よりエクササイズ等を体験しながら講話いただきました。

体験型の研修であり各種トレーニングでは、汗ばむくらいの運動量で、自身の身体の衰えを感じ苦笑しながらも楽しく学びました。日々の生活に取り入れられるトレーニング法であり、母子から成人の保健指導に役立つ内容でした。

骨盤のゆがみ解消や筋力向上は健康維持への第1歩であるため、まずは自身のペースで無理なく実施していきたいと思います。

◎第3回研修会

第3回研修会は、「健康格差社会における保健活動の原点を探る」と題し、独立行政法人国立成育医療センター研究所 成育社会医学研究部部長 藤原武男氏より講話いただきました。

～健康格差社会とは～

あるグループは健康で、別のグループは不健康である社会。それが遺伝など個人の性質によるものではなく、社会的要因によってきめられた健康状態に違いがあること。

～保健師活動の原点への示唆～

- ・保健師の直接の介入、そして家族・地域への働きかけによる間接的な介入により、個人の健康は作られる。
- ・地域への働きかけとしてソーシャルキャピタルが求められるが、これまでの保健師が行ってきた活動とは別の新たな活動をやるわけではない。
- ・保健師の地域づくりは、まさにソーシャルキャピタルを醸成している。
- ・今後はそれをいかに評価し、保健師の活動が地域づくりに効果があったか（役に立ったか）を示すことが必要。
- ・住民の健康を向上させていればなお良い。（虐待や孤立死など、待ったなしの課題は特に）



- ・核家族の増加などから地域のつながりの希薄化が目立ちますが、講義を受け改めて地域のつながりソーシャルキャピタルを高める、地域に根差した活動の重要性を実感しました。
- ・日頃の活動の評価、データにしてそれを活用することをしっかりしていきたい。

20代

- ・保健師としての人のつながりの大切さややりがい、再度確認することができました。
- ・地域の中での傾向を肌で感じていることが、数値化されるとなすけると同時に、他者への説得材料にもなるが、その力が足りないなあと思いました。

30代

- ・教育の差が健康の差（受診率の差）にもつながることが数字として出ていたので参考になった。
- ・これまで実践してきたことが、ソーシャルキャピタルの醸成につながるのだと実感できた。評価することの重要性を改めて感じた。

40代

- ・事業施策をする上でのデータのとり方、考え方など健康格差というテーマのデータを見ながらとても勉強になりました。
- ・自身の保健師活動を評価して伝達していく事の必要性を感じました。

50代

◎男性保健師会のその後

野村 雅志（栃木市）

平成 24 年 9 月に第 1 回男性保健師の学習会が開催されました。日頃から他の男性保健師と会いたいと思っていましたが、なかなか機会に恵まれなかったため、とてもありがたい機会をいただけたと思います。その後は、1 年余りで 4 回の懇親会を開き、毎回ほぼ全員が参加しているのは、この仲間を貴重な存在と認めている証でしょう。

もちろん懇親会だけではなく、日々の業務でも活かされています。あるメンバーは健診の受診票を見直す際、各メンバーを通じて他市町の情報収集を行いました。他市町に相談というのは少々気後れしてしまいがちですが、このネットワークが業務にも活かされ、各々の働きやすさに繋がってきているのではないのでしょうか。

全国規模でも平成 25 年 6 月に第 1 回全国男性保健師の集いが沖縄県にて開催され、メンバーからも参加がありました。僅かな時間の中でも同じ仲間と顔を合わせたことで今後の原動力を得たに違いありません。また、全国では男性保健師同士のメーリングリストがありましたが、より近い距離で濃い情報交換ができるように県内版のメーリングリストも平成 25 年 12 月に始動したところです。

今後もこのネットワークを通じて男性保健師が更に元気になり、その結果として住民サービスの向上に繋がっていけばよいと考えています。



◎トピックス ～「癒しまいんど」～

日々、忙しい業務をこなしている保健師の皆さん、自分のところを休める時間（とき）をもっていますか。こころが病んでいては、他人（ひと）の声に耳を傾ける余裕がなくなります。

自分が「ほっと」できるこころのケアを是非持ってください。好きな音楽、運動、香り（アロマ、お香）に酔う、動物と触れ合う、旅行、温泉、おしゃべり、小物づくり、編み物、ダンス、パッチワーク、草花づくり、カラオケなどなど。保健師諸氏の皆さん、「癒しまいんど」で、ますます多忙な業務をこなす毎日乗り越えてください。

「こころの癒しの工夫」を私はこんなことをしています・紹介があったら、是非、事務局までご一報ください。次号にて紹介させていただきます。

—「こころの癒しを求めている一会員より」—

編集後記

平成 26 年の新しい年を会員の皆様は、どんな夢を持って迎えましたか。

今年は午年です。研修広報班には、なんと午年生まれが 2 人もいました。馬の目は遠くまで透き通る美しい目です。

保健師活動も、遠くまで良く見る視点を持つと、うま（午）くいくかもしれませんね。

平成 26 年も午年に乗ってジャンプしていきましょう！

（研修・広報班役員一同）